佳作

愛するべきこと

青森県八戸市立下長中学校
３年　川村　萌々子

私は、自分が嫌いだ。何か優れているわけでもないし、おもしろいわけでもない。しかし、友達に嫌われることが怖い。私はいつももう一人の自分をつくりだし、会話するようになっていた。

私は、偽りの自分をつくりだしたきっかけがあった気がする。たしか、小学生のころ、仲の良かった友達と互いの考えの違いで、けんかしたときだったと思う。それ以降その友達と話すことはなかった。私は、違う人と仲良くなることにした。しかし、狭いコミュニティーの中で私たちにしか伝わらない話をして笑い合っていた私には、他の人の楽しさを理解することは難しかった。だから、私は、相手に合わせることに必死になった。合わせれば合わせるほど友達は共感してもらえることに喜びを感じるだろう。私は、そう思い共感し続けた。しかし、以前の友達との仲のような関係が生まれることはなかった。それどころか、前までの楽しく過ごしていた自分を見失ってしまった。

私は、自分がわからなくなった。他人に合わせて話している。しかし、それが本当に合っているのかも分からない。そのうちに自分の本当の感情が消えていった。うれしいのか悲しいのか、それとも怒りなのか。分からない。だから、本当の感情ではなく人に合わせた感情を出すようになった。しかし、他の人に合わせても心が満たされることはなかった。私は、おもしろいとはどういうことなのだろうか、感情の正しさとはどういうことなのだろうか、と考えるようになった。しかし、考えても私には分からなかった。日に日に人生に希望を失っていく一方だった。私は誰なのだろうか。

ある日、私は音楽を聴いていた。すると「多少未熟だとしてもすごく美しいんだ。」という歌詞が目についた。私は、自分の未熟さを美しいと、とらえたことがなかった。それに気づいた瞬間、他人ばかり気にして自分を愛していなかったことに気づいた。自分を理解してあげなければ他人のことも理解してあげることはできない。以前は、欠点がある自分がはずかしいと思っていたけれど、欠点がない人などいないのだと思った。そして、自分を理解してくれないことを恐れてはいけない。どこかには私を理解してくれる人がいるはずだからと思えるようになった。

未来の自分は、自分を愛しているだろうか。今の私は、社会に出たら自分と向き合う時間が減って、自分から離れてしまうのではないかと心配だ。他人の

意見に流されて自分を見失わないでほしい。また、未来の自分は、今死んでも後悔がないくらい人生を全うしているだろうか。なぜ死んではいけないかなんて私には分からないけれど､逆に生きているのになぜ死ぬのかと考えてみたら、生きることに何か目的があるように感じられる。私には何か目的はあるだろうか。今の私の思う生きる目的は、自分を知り他の誰かの生きる目的を探す手助けになることだ。私は、人生に深い意味はないと思う。だからこそ人は、人生が分からなくなり、人に合わせて生きて後悔して死んでいく。私が何年生きるかなんて分からない。70 年後死ぬかもしれないし、明日死ぬかもしれない。しかし、重要なことは、そこではないと思う。私には、感情があり、お互いの考えを共有し合い、何かを愛することもできる。これこそ人間の才能だ。そして誰もが幸せになれる。私は、嫌われることが怖いか。死ぬことが怖いか。でも逃げていたら最後に後悔するだけだ。それならば少しでも楽しく生きよう。自分と向き合って自分を知ってあげる。そして、他の誰かの自分を見つける手助けになれたらもっと幸せな人生にできるだろう。

ミスをした過去も今の自分の基になる考えの一つだ。そして、ミスをしたからこそ成長することができる。それを隠す必要はない。小さな自分が親に愛され成長してきたように、未熟な自分も愛してあげればいつかは立派な実へと成長する。自分が社会人になっても、自分を見失うだろう。しかし、自分が立ち止まれば自分自身の力で追いつくことができる。自分を見失ったら、１回立ち止まり、自分についてよく考えてみる。そうすれば自分への愛がきっと深まっていくだろう。そして、他の人への理解も深まり、境界線が消えて愛することができるようになるだろう。

未来の自分は自分自身を愛していますか。